中学校・道徳の内容項目の解説

寛容・謙虚

●中学校学習指導要領（平成20年３月）

２　主として他の人とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(5) それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解して，寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。	寛容・謙虚

●解説

全体的な理解	個性とは，一人一人の人間がもつ固有の他ととりかえることのできない独自性である。そして，それは，その人の一部分ではなく，人格の総体であり，その人からかけ離れたものではない。人間は，たいていの物事についてその全体を知り尽くすことは難しく，自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。そこで，大切なことは，互いが相手の存在の独自性を認め，相手の考えや立場を尊重することである。個性は他と異なるため，開かれた心で他に対して謙虚に学んでいくことが，よりよい人間としての成長を促すために大切なことである。また，個性は，決して自分一人で伸びるものではなく，他に認められながら伸びるものである。互いのもつ異なる個性を見つけ，違うものを違うと認め，ときには許す私心のない寛容の心，偏狭なものの見方や考え方のない広い心を育てることが求められる。
発達的な観点	中学生の時期は，ものの見方，考え方に違いが現れてくるとともに，個性がはっきりしてくる。そのために，自分の考えや立場に固執したりする傾向が強くなり，友人間に意見の対立や摩擦が生じることも少なくない。その一方で，同調過剰の傾向も生じやすく，いじめのような社会問題に発展することもある。また，この時期は，反抗期にもあたり，独自性が出てくるために，そのプロセスとして，わがままを言ったり，寛容さと謙虚さに欠けるというようなこともあることを忘れてはならない。
指導の着眼点	指導に当たっては，個性とは何かについて正しく理解するとともに，自らの意志に背いて他に同調するのではなく，多様な個性を認め，それぞれの差異を尊重するという態度を育てることが大切である。その際，現実から逃避したり，今の自分さえよければよいといった「閉じた個」ではなく，自己と対話を重ね自分自身を深めつつ，他者とともに生きるという自制を伴った「開かれた個」が大切であることを理解できるような指導の工夫が必要になる。このような指導を通して，個性の尊重や寛容の心をもち謙虚に他に学ぶことが人間としての成長に役立つことを理解できるようにすることが大切である。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年９月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年３月）

２　主として他の人とのかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
低学年	---------	
中学年	---------	
高学年	(4) 謙虚な心をもち，広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。	寛容・謙虚